

平成26年度 徳島県立脇町高等学校 学校評価 総括評価表

本年度の重点目標	課題	活動計画	評価指標	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	評価	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題
1 学校と家庭が連携を深め、主体的に学習する態度と確かな学力を持った生徒を育成する。	① 計画的、効率的な授業の展開	1 シラバスを効果的に活用し、計画的な学習スタイルを確立させる。	「シラバスを効果的に活用し、計画的な学習ができています」肯定的評価40%以上	有効活用しやすいように一部改訂したが、生徒の肯定的評価は17.6%(昨年度比-1.3)、教職員60.9%(-15.6)と低い結果であり、今後さらに見直しが必要である。	C	B	B	シラバスについては、生徒が計画的に学習できるようまとめられている点はよいが、生徒が意欲を持って積極的に利用できるようさらに簡略化する必要がある。また、4月当初だけでなく、学期毎に説明を加えるなど、活用方法について検討する必要がある。	本年度も改訂を進めているが、次年度以降も生徒にとって使いやすいものになるようさらに改訂を行う。
		2 始業のチャイムを守り、授業時間の確保を図る。	「始業チャイムと同時に授業を始められている」肯定的評価95%以上	生徒の肯定的評価は97.8%であり、ほとんどの生徒が始業時間を守った生活ができています。	A				
	② 指導方法の工夫・改善	1 教員相互の授業参観を実施し、授業力の向上を図る。	「授業力向上に授業公開・参観授業を役立てることができた」肯定的評価80%以上	1・2学期に1回ずつ実施した。職員の肯定的評価は91.3%であり、目標は達成できた。	A	B	(所見) 公開授業週間での教員相互の授業参観や教科会は、授業内容や指導方法の工夫・改善につながっており、今後も続ける必要がある。また、外部講師を招いての授業力向上研修会が大変有意義であったので、今後も継続したい。	教員同士の指導力向上を図るため、今後も継続する。	
		2 各教科で定期的に教科会を開催し、学習指導の方法の工夫や改善について検討する。	「教科会を指導の方法の工夫や改善に繋がることができた」肯定的評価80%以上	職員の肯定的評価は84.6%であり、目標は達成できた。また英数国については県外から授業の達人を招いての授業力向上研修会を実施し、授業改善に努めた。	A				
		3 定期的に課題や反省ノート(定期考査・実力テスト・校外模試)を提出させて、学習内容の定着を図る。	「課題・反省ノートの提出率」90%以上	提出率は、1年生93.2%、2年生81.5%、全体で87.3%であり、目標は達成できなかった。2年生には少し中だるみの傾向が見られる。	C				
		4 ペアワーク等を取り入れ、生徒が積極的に取り組めるよう授業を工夫する。	「英語の授業の各種活動に前向きに取り組んでいる」肯定的評価90%以上	全学年で、授業に前向きに取り組んでいるという肯定的な評価が90%を超えており、ペアやグループでのコミュニケーション活動にも積極的であった。	B				
	③ 学習習慣の確立	1 小テストを実施することにより、主体的な学習を促し、基本事項の定着を図る。	「小テストの7割以上得点者数」70%以上	年間を通して継続的に小テストを実施し、基礎力の定着を図った。科目内での多少のばらつきはあるものの、全教科を平均すると目標の70%をほぼ達成できた。	B	B	授業の予習・復習をしている生徒の割合は上昇傾向にあり、今後も継続的な指導が必要である。入学当初から進路に対する明確な目標を持たせることで、主体的に学習する意識を向上させる必要がある。	出題範囲や形式について定期的に振り返り、より一層学習効果が上がるような小テスト作りを工夫する。また、生徒の自主学習の習慣作りに役立つよう、授業内容との関連性を高める。	
		2 「生活の記録」を活用して生徒の現状を理解し、学級担任が中心となって学習方法などについて適切なアドバイスを行う。	「生活の記録等を利用して生徒の実態を把握し、日常的に指導ができています」肯定的評価60%以上	日々の学習時間の変化や毎日の生活についての情報が得られ、93.5%の職員が実態把握に有効であるとしている。生活記録を役立てている生徒は37.4%と低かった。	B				
	④ 目的意識を持った学習態度の育成	1 予習・復習を促す週末課題を作成し、自主的・計画的な学習習慣を育成する。	「週末課題は学習の習慣化に役立った」肯定的評価70%以上	職員は73.9%が役立ったとしているが、生徒の肯定的評価が67.1%と目標までもう一步の結果であった。	B	B	公開授業や教科会を定期的に行う中で、情報を共有し、それぞれの教科指導の工夫・改善に活かしてほしい。授業力向上研修は大変有効であるので、今後も継続実施してほしい。	教科間の連携に努め、課題全体の量の精選に努める。また、長期休業中の課題は、一定期間ごとに分割して提出させ、点検するなど、指導方法を工夫する。	
		2 定期考査・実力テスト・校外模試に向けて、主体的・計画的に学習させ、進路目標の実現に向けて努力させる。	「定期考査・実力テスト・校外模試に向けて計画的に学習している」肯定的評価70%以上	全教科を平均すると、目標をほぼ達成できた。定期考査同様に、テストの有効活用方法に重点を置いた指導が必要である。	B				
		3 定期考査・実力テスト・校外模試の結果を有効に活用させる。	「定期考査・実力テスト・校外模試の結果を振り返りを行っている」肯定的評価70%以上	定期考査や実力テストの振り返りができている生徒は67.9%と少なく、さらに働きかけが必要である。	B				
	⑤ 家庭学習の充実	1 家庭学習時間調査を通して、家庭における学習状況を把握し、学習習慣を育成する。	全生徒の年間平均家庭学習時間2.8時間以上。3年生3.5時間以上、2年生2.8時間以上、1年生2.7時間以上	全生徒の年間5回の平均家庭学習時間は2.67時間。3年生3.5時間、2年生2.3時間、1年生2.2時間で目標に届いていない。	C	C	学習時間数ほどの学年も昨年より減少気味であるが、1時間未満の生徒は減少した。予習・復習だけでなく実力テストの勉強や週末課題への積極的な取り組みがされれば、全体的に増加するはずである。	家庭学習の大切さについて、機会あるごとに指導する。特に、1・2年時での指導を工夫する。	
		2 学年集会などを利用して学習の意義や具体的な学習方法について指導し、家庭での学習習慣を定着させる。	家庭学習時間調査による1時間未満の生徒の割合を年度当初より10%以上減少させる	年間5回の学習時間調査を検証してみると、2年生では5人から3人に減少したが、1年生では2人から10人に増加している。家庭学習習慣の定着が不十分であり、学年内でも、学習時間の差が大きくなっている。	C				
	⑥ 興味・関心を高める教育	1 教材を工夫し、生徒の興味・関心を高める、わかりやすい授業を行い、確かな学力を定着させる。	「よくわかる授業を実践することができた」先生の肯定的評価80%以上 「先生の授業はよく理解できた」生徒の肯定的割合	肯定的評価は教員83.5%、生徒は88.2%であり、目標を達成できた。	A	A	「生活の記録」は生徒の状況把握や信頼関係構築に有効であるが、毎日のコメントについては、教員の過重負担にならないよう工夫してほしい。	興味・関心を高める教育についての意識を高め、指導力の向上を目指す。	
		2 魅力あるSSH事業を展開し、知的好奇心を向上させる。	「SSH事業の各種活動に参加してよかった」肯定的評価60%以上	各事業の肯定的回答の平均値は66.9%であり、目標を達成できた。	A				
	⑦ 家庭との連携	1 PTA総会や学年PTAへの積極的な参加を促す。	「保護者のPTA総会・学年PTAの参加者数」前年度比5%アップ	PTA総会参加者が42%(昨年度比+10)、学年PTA参加者3年53%(+5)、1・2年49%(+5)と向上し、学校教育への関心が高まっている。	A	A		進路に関心を持つ保護者は増えつつあるが、学年PTAへの参加率は低い。内容について検討する。	
		2 迅速にホームページを更新し、最新の情報を提供する。	「ホームページは、学校の活動状況等を理解するのに役立っている。」肯定的評価70%以上	保護者の肯定的評価は65.4%であり、情報提供に課題を残しているが、ホームページで各種情報を得ている生徒は73.3%であった。	B				

平成26年度 徳島県立脇町高等学校 学校評価 総括評価表

本年度の重点目標	課題	活動計画	評価指標	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	評価	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題
2 夢を持ち、目標の実現に向けて努力し、将来、社会のリーダーとして活躍しうる生徒を育成する。	① 望ましい職業観・早期の進路意識の育成	1 W-ingプラン/SW-ingプランの活動、職業調べ、学部・学科研究、講演会等に積極的に取り組ませる。	「W-ing/SW-ingプランの進路学習は進路選択に役立った」生徒肯定的評価65%以上	様々な行事に生徒は真面目に取り組んでおり、肯定的評価は67.9%(昨年度比+7)と良い結果であった。	B	B	B	インターネットは手軽で便利に情報を得ることができ、誤解や偏見を与える情報、不正確な情報などがある。スマートフォンなどの使用時間と学習時間は反比例する傾向がある。依存症にならないよう家庭とも連携した指導をしてほしい。	各種事業の実施時期や内容に加え、それぞれの事業の成果とその活用のしかたについて検討する。 この事業で得たこの成果をどのように活かしていくかを検討する。 入試環境の変化に即して情報提供を行い、進路情報誌「道標」の内容を改訂する。
		2 SSH活動への参加を将来の志望分野探しに役立たせる。	「SSH活動は大学進学後の志望分野探しに役立った」生徒の肯定的評価60%以上	肯定的回答は58.9%で、各種講演会・プレゼンテーション等は効果的に機能している。	B				
		3 「道標」の内容の充実に努めるとともに、各種の進路情報をわかりやすく提供する。	「進路情報は充実している」生徒・保護者の肯定的評価70%以上	肯定的評価は、保護者81.6%(昨年度比+3.5)、生徒65.6%(+2.2)であり、概ね達成できた。	B				
	② 個々の希望や適性に応じた多様な進路指導	1 三者面談に加え、必要に応じて個別面談を実施するなど、きめ細やかな進路指導を行う。	「面談や個別指導を通して、生徒に応じた進路指導ができて」「先生は面談などを通して、進路についてよく指導してくれている」生徒の肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価は79.2%(-4.6)、保護者は85.6%(+5)であった。	B	B	(所見) W-ingプラン/SW-ingプランの活動が進路選択の資料となるよう、さらに充実させていく必要がある。また、小論文やプレゼンテーション学習の再編成も必要である。	生徒一人一人にとって、より効果的な面談の方法や、それを実現するための体制を整える。 取り組み内容のさらなる充実を図り、進路意識の向上につなげる。	
		2 小論文・ディベート・プレゼンテーション指導を充実させ、論理的言語能力の育成を図る。	「小論文・プレゼン・ディベート学習は進路実現に役立っている」生徒の肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価は69.6%(昨年度比+7.5)であり、指導内容を再編成したことの効果が出ているようだ。	B				
	③ 生徒保護者が希望する進路目標の達成	1 日常の取り組みを学習成績に反映させ、進路実現に結びつける。	「生徒・保護者の希望の高い国公立大学への合格者数」在籍数の50%以上	国公立大合格者107名(51.7%)	B	B	時間的な問題があり、ボランティア活動への積極的な参加は難しいと思われる。さらにきめ細やかな指導を要する。	生徒・保護者の進路希望が実現することを第一目標にして学校活動を適切にマネジメントし、目標の達成につなげる。 顧問の努力をサポートする対策を講じる。	
		2 学習と部活動の両立を図りながら、生徒の自己実現に向けた指導を行う。	「部活動顧問は各種大会に向けた調整を行うとともに、生徒の学習状況を考慮して活動時間を設定している」肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価74.8%。目標の80%には届かなかったが、多数の部活動を展開していることを考えると、おおむね達成できたと言える。	B				
	④ 将来、社会において活躍しうる脇高生の育成	1 学校祭や球技大会などの学校行事へ積極的に参加することにより、協働意識を高める。	「学校祭や球技大会は生徒中心の運営で非常に楽しく充実している」肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は88.7%で、目標は達成できた。準備期間が短かったが、生徒はよく協力し、良い結果が出た。	A	B	生徒会活動などが今後も生徒の主体的な活動として取り組めるよう、支援する必要がある。	生徒がさらに主体的に活動できるよう現在のシステムを発展させる。 生徒会活動を他の生徒にアピールする。特に、後期生徒会の活動については、その内容を周知する。 生徒の身だしなみに対する意識は向上している。保護者の理解・協力を得ながら組織的かつ粘り強く取り組む。	
		2 HR活動や生徒会活動を通して社会性を育てる。	「生徒会活動は学校生活がよりよくなるように活発に活動できている」肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は63.5%。生徒会の活動が、役員以外の生徒にあまり知られていないようである。	C				
		3 脇高生にふさわしい身だしなみ・言葉遣い・時間厳守など、社会人として必要な態度や習慣を育成する。	「服装・言葉遣い・時間厳守を心がけた生活ができている」肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価は84.7%(昨年度比-3)であったが、保護者は88.2%(+5)であり、目標は概ね達成できた。	B				
	⑤ 将来、社会に貢献しようとする人材の育成	1 ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、社会貢献への意識を高める。	「各種ボランティア活動には積極的に参加している」肯定的評価60%以上	生徒の肯定的評価48.2%。ボランティア活動に対する意識を高める必要がある。生徒は時間の余裕があまりないようである。	C	B	学校周辺および、老人ホーム等の清掃活動についても周知させ、積極的な参加を促すような取り組みが必要である。 充実した研修になるよう、訪問先の精選・研修内容に加え、アポイントの方法等について検討する。		
		2 修学旅行の自主研修「企業・官公庁等訪問」やその事前研究、事後発表を充実させ、社会への関心を高める。	「修学旅行の自主研修に積極的に取り組み、社会への関心が高まった」生徒の割合70%以上	修学旅行参加率は100%で、その内容も満足できると90%以上が答えている。大学や研究所の訪問等、有意義な旅行内容となった。	A				
	⑥ グローバル化に対応できる人材の育成	1 生徒の英語学習への意欲を高めるとともに、国際理解教育の充実やコミュニケーション能力の向上を図る。	「英検やGTECの受検、ALTとの授業に主体的に取り組んだ」肯定的評価70%以上	英検の受験者が昨年より34人増加し、2年生ではGTECのグレード4以上が昨年度より35人増加した。また、ALTとのチームティーチングにも毎回意欲的に取り組んだ。	A	B	社会のリーダーとして活躍しうる人材の育成をめざし、ボランティア活動への参加や異文化理解などを積極的に進める必要がある。	グローバル社会の一員として、異文化に対する理解を深めさせるとともに、学んだことを実践できるよう指導する。	
		2 新聞・雑誌・インターネット等を活用し、異文化に関する知識と正しい認識を持たせるとともに、グローバル化に柔軟に対応できる能力を育成する。	「社会の様々な問題に興味を持ち、新聞・雑誌・インターネット等を利用している」生徒の割合が70%以上	生徒の肯定的評価は47.8%と低く、積極的な活用を促す工夫が必要である。	C				

平成26年度 徳島県立脇町高等学校 学校評価 総括評価表

本年度の重点目標	課題	活動計画	評価指標	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	評価	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題
3 自尊感情を養い、仲間と協働できる心豊かで公共心と社会性を備えた、たくましい生徒を育成する。	① 環境美化・防災に対する意識の向上	1 清掃活動やゴミの分別に積極的に取り組み、快適な環境で学習する。	「ごみの分別は正確にするよう心がけている」肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価87.4%(昨年度比+4.3)と意識は向上している。ゴミの分別も正確にできた。	B	B	B	防災意識を向上させるため、参加体験型訓練を取り入れる。特に、雪害など、その地域に住んでいないと気付かない課題があることから、あらゆる時間帯、様々な事象を想定して、迅速かつ適切に行動できる訓練や役割分担をしておく必要がある。	ペットボトルのキャップの収集をはじめ、さらに細分化した分別ができるよう指導する。いつ起こるか分からない南海・東南海地震に備えるためにも防災意識が高まるよう引き続き参加体験型訓練などを取り入れる。
		2 参加体験型訓練など、体験を重視した活動を取り入れ、防災に対する関心を高め、家庭でも学校でも積極的に行動できるよう指導する。	「防災訓練には、関心を持って積極的に参加している」肯定的評価85%以上	防災訓練は年2回実施しているが、「積極的に参加している」生徒の割合は59.6%(昨年度比-1.8)であり、まだまだ意識は低い。	C				
	② 集団や社会の一員として協力	1 各課や学年との連携を密し、ホームルーム活動の内容を充実させる。	「ホームルーム活動の時間は活発な雰囲気積極的に取り組んでいる」肯定的評価75%以上	生徒の肯定的評価は74.8%であり、概ね目標は達成できた。	B	B	B	(所見)身だしなみ指導や交通安全教育は、全教職員が歩調を合わせて継続的に指導しており、一定の成果を上げている。今後も社会人として必要な態度や習慣の育成に励む必要がある。	担任会等でホームルームで扱う内容について話し合い、展開しやすい方策を考える。
		2 部活動を通して、集団の中での役割や立場を理解し、協力できる生徒を育成する。	「部活動を通して好ましい人間関係ができている」肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価は83.4%で、目標には届かなかった。	B				
	③ 基本的生活習慣の育成、安全教育の推進	1 身だしなみについて各クラス・各学年・学校全体で継続的な指導を行う。また、朝のあいさつ運動を毎月実施する。 2 バイクの安全運転実施講習会を開き、車体検査を各学期に行う。また、登下校指導を毎月行うなど、交通安全教育を徹底する。 3 情報モラルを身につけさせるとともに、携帯電話やスマートフォン等の利用ルールを守らせる。 4 すべての生徒について、個人面談や家庭連絡を密に行うとともに、関係機関との情報交換を適宜行う。	「常に校則を守ることを心がけている」肯定的評価85%以上	肯定的評価は生徒84.4%(昨年度比-1.4)・保護者88.4%(+0.3)であり、概ね目標を達成することができた。	B	B	B	個々の生徒の悩みに対応するため、教職員が情報の共有を図り、組織的に指導することができた。	保護者の理解・協力を得ながら、今後も地道な啓発を続ける。
			「交通安全・交通マナーについては日ごろから十分に意識し、守っている」肯定的評価85%以上、生徒の交通事故を減らす	肯定的評価は生徒84.1%(昨年度比-1)・保護者88.1%(±0)であった。さらなる啓発と意識づけが必要である。	B				
			「携帯電話等の利用時間を守っている」肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価は45.0%で、携帯電話の利用時間について指導しているにもかかわらず、守れていない生徒が多かった。	C				
			「生徒の指導に関して、家庭と緊密に連携しながら適切に対処できている」肯定的評価85%以上	保護者の肯定的評価85.6%(昨年度比-4.6)であった。	A				
	④ 保健指導の充実	1 時節や生徒の生活状況に応じて保健だよりを定期的・臨時的に発行するなど、効果的な保健指導を行う。 2 計画的かつ能率的に健康診断を実施するとともに、事後指導を徹底する。 3 教職員に加え部活動生徒への救急法講習会を実施するなど、校内救急体制の充実に努める。教職員対象救急法講習会(年1回実施)	「保健だよりの発行」年間10回以上	病気や熱中症などの予防に努めるとともに、毎月1回の「保健だより」を発行することができた。	A	B	B	人権教育ホームルームの公開などにより、指導方法の工夫につながったと思われる。	交通安全や交通マナーについて徹底した指導をお願いしたい。
			生徒全員が定期健康診断を受診し、適切な事後管理ができる。	生徒全員の定期健康診断の受診と、適切な事後管理はできているが、所見があった者への治療の呼びかけが不十分であった。	B				
			「緊急時に救急措置(AEDを含む)をすることができる」教職員85%以上	教職員の肯定的評価は91.3%(昨年度比-2.8)で、目標を達成することができた。	B				
	⑤ 教育相談及び特別支援教育の充実	1 教育相談活動について生徒や保護者への周知を図るとともに、生徒の悩み相談を行い、生徒の自立を支援する。 2 不登校になりがちな生徒を早期発見・対応できるよう、欠席や欠課の報告時数を変更し、教職員全員の意識を高める。 3 5月に1・2年生を対象に自己理解調査を行う。	「自分の悩みなどの相談がしやすい環境にある」評価結果前年度よりUP(昨年度:生徒82%・保護者84.5%)	肯定的評価は、生徒79.7%(昨年度比-2.3)、保護者86.2%(+1.7)であった。	B	B	B	携帯電話等のマナーやモラルについては、適宜指導するとともに、講演会や研修会等を取り入れ、意識の向上を図る必要がある。	画像や動画など、受動的に楽しめるものではなく、本や新聞などを使ってもっと文字に親しみ、考える活動ができるよう指導して欲しい。
			「教職員が普段から生徒の様子を気にしたり、欠課や欠席が続く生徒への対応が、昨年度より早くなったと感じた」教職員が80%以上	肯定的評価は60%程度にとどまった。教員間で生徒の認識にも温度差も感じるが、相談担当に個別に相談する教職員は増加傾向にある。	C				
			「自己理解調査により、自己の特性を理解したり人間関係作りのヒントを得ることができたと感じた」生徒60%以上	生徒の肯定的評価は60%以上で効果的であったことがうかがえる。しかしながら、結果を継続して活用するまでには至らなかった。	B				
	⑥ 人権教育の推進	1 人権問題講演会・「脇高人権の日」を実施するとともに、PTA総会や保護者面談等を通し、人権問題について啓発する。 2 人権学習ホームルーム活動の指導案、資料の共有化を図るとともに、参加型体験学習など体験を重視した指導を行う。 3 いじめが起らない環境づくりを推進するとともに、生徒の発するサインを見逃さないよう、定期的にアンケートを実施し、実態把握に努める。	「人権問題について学んだことを、日常生活に活かそうとしている」肯定的評価85%以上	肯定的評価は66.6%(昨年度比-3)にとどまっており、学んだことを実践できている生徒は少ない。	C	B	B	「保健だより」や「図書館だより」を配布する中で、生徒の健康意識の高まりや読書週間の定着につながるよう指導する必要がある。	PTA総会については、共働きかつ厳しい労働環境にある保護者には参加が難しいようだが、参加者数は年々増えている。総会時の人権問題講演会については、何かに特化したものではなく、あらゆる問題に対応できるような内容を扱う必要がある。
			「人権学習ホームルーム活動は充実している」肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価は主体性・理解度とも90%を越えている。(昨年度比+5.0)有意義な活動ができています。	A				
			生徒アンケートを学期に1回以上実施	生徒指導課と連携し、学期に1回のアンケートを実施し、生徒の悩みや問題解決等に迅速な対応ができた。	B				
	⑦ 感性豊かで、調和のとれた人間性の育成	1 芸術や文化に関する活動を通して、芸術・文化について理解を深めるとともに、豊かな情操を養う。 2 図書館活動を活発に推進し、読書への関心を高め、感性豊かな生徒を育成する。	「芸術や文化活動に積極的に取り組んだ」肯定的評価60%以上	芸術に対する生徒の肯定的評価は、1・2年とも90%を超えており、授業に対する理解度についても99.3%と非常に高い。興味・関心も98.5%であり、積極的に取り組んでいる。	A	B	C		授業内容のレベルを上げ、芸術文化に関する知識や技術の向上を図るとともに、各種コンテストなどへの積極的な参加を促す。
			「普段からコラムを読んだり、読書に親むよう心がけている」肯定的評価60%以上、図書の出し出し数・入館者数の増加を図る。	肯定的評価は生徒57.5%(昨年度比+7.7)・保護者45.7%(±0)・教職員89.1%(+4.8)と昨年度より向上したが、目標は達成できなかった。	C				